

平成14年度 21世紀COEプログラム 拠点形成計画調書 概要

機 関 名	大阪市立大学		機関番号	2 4 4 0 2	整理番号	D - 1
1 . 申請分野 (該当するものに印)	A<生命科学> B<化学、材料科学> C<情報、電気、電子> D<人文科学> E<学際、複合、新領域>					
2 . 拠点のプログラム名称 (英訳名)	都市文化創造のための人文科学的研究 Studies in the Humanities for the Development of Urban Cultural Creativity					
研究分野及びキーワード	<研究分野: 史学>(文化交流史)(異文化コミュニケーション)(生活様式) (宗教社会学)(芸能・芸術研究)					
3 . 専攻等名	<u>哲学歴史学専攻</u> 人間行動学専攻 言語文化学専攻					
4 . 事業推進担当者	計 1 8 名					
ふりがな<ローマ字> 氏 名(年齢)	所属部局(専攻等)・職名	現在の専門 学 位	役割分担 (初年度の拠点形成計画における分担事項)			
(拠点リーダー) Sakaguchi Hiroyuki 阪口弘之(59)	文学研究科(言語文化学)・教授	演劇史・文博	拠点リーダー、ハンブルク・ロンドン担当			
Kobayashi Michio 小林道夫(56)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	哲学・文博	都市の人間チーム			
Sakaehara Towao 栄原永遠男(55)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	古代都市史・文博	比較都市文化史チーム副リーダー			
Tsukada Takashi 塚田 孝(47)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	近世都市史・文博	比較都市文化史チーム			
Niki Hiroshi 仁木 宏(39)	文学研究科(哲学歴史学)・助教授	中世都市史・文博	比較都市文化史チーム			
Nakamura Keiji 中村圭爾(55)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	比較都市史・文博	比較都市文化史チーム			
Inoue Koichi 井上浩一(54)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	比較都市史・文修	比較都市文化史チーム			
Morita Yoji 森田洋司(60)	文学研究科(人間行動学)・教授	都市社会学・文博	現代都市文化チーム、上海担当			
Tani Tomio 谷 富夫(50)	文学研究科(人間行動学)・教授	宗教社会学・文博	現代都市文化チーム			
Kaneko Satoru 金児暁嗣(57)	文学研究科(人間行動学)・教授	社会心理学・文博	都市の人間チーム副リーダー			
Toyoda Hisaki 豊田ひさき(58)	文学研究科(人間行動学)・教授	教育社会史・教博	現代都市文化チーム			
Yamano Masahiko 山野正彦(56)	文学研究科(人間行動学)・教授	文化地理学・文博	現代都市文化チーム副リーダー			
Mizuuchi Toshio 水内俊雄(45)	文学研究科(人間行動学)・助教授	都市地理学・文博	現代都市文化チーム			
Yamaguchi Hisakazu 山口久和(53)	文学研究科(言語文化学)・教授	中国思想・文博	都市の人間チーム			
Shibahara Koji 芝原宏治(60)	文学研究科(言語文化学)・教授	英語学・文博	都市の人間チーム			
Miura Kunio 三浦國雄(60)	文学研究科(アジア都市文化学)・教授	中国思想・文博	都市の人間チーム			
Nakagawa Shin 中川 眞(50)	文学研究科(アジア都市文化学)・教授	都市音楽学・文博	現代都市文化チーム、バンコク・ジョ クジャカルタ担当			
Hashizume Shinya 橋爪紳也(41)	文学研究科(アジア都市文化学)・助教授	都市文化学・工博	現代都市文化チーム、バンコク担当			
5 . 申請経費(単位:千円) 千円未満は切り捨てる						
年 度(平成)	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	合 計
申請金額(千円)	54,100	117,330	85,650	85,650	88,650	431,380

6. 拠点形成の目的・必要性

(将来構想等調書との関係を踏まえ、本拠点の特色を述べるとともに、どのような拠点を形成しようとするのかがわかるように焦点を絞り、その目的・必要性について、具体的かつ明確に記入してください。また、背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果とその学術的または社会的な意義・波及効果等についても記入してください。)

文学研究科では、これまで計4名の日本学士院賞受賞者(うち1名は恩賜賞)を出し、難波宮跡の発掘調査では、国内外に知られる顕著な学問的業績をあげ、「野宿生活者調査」の成果は、政府のホームレスに関する施策の基礎資料として活用され、大阪市その他の施策の科学的根拠となるなどの顕著な業績をあげてきた。

これらの実績の上に立って、文学研究科に研究教育拠点として「都市文化研究センター」(仮称、以下センター)を設けて、研究教育を推進する。

本拠点では、都市に生きる人間のいとなみの基礎となる文化の向上をめざして、過去から現在に至るまでの都市文化を、学問的に深く考察する。そのため、歴史学を中心とする人文科学の諸分野の研究者がセンターに所属して拠点を形成する。このような特色ある編成によって、これまで看過されてきた都市文化に焦点を当てて総合的に研究する点に、従来見られない本拠点の特色がある。

本拠点では、都市に蓄積されてきた文化的伝統を歴史的に解明する基礎研究をふまえ、都市文化の現状を研究する。日本の都市文化の特色を解明するため、アジア的視点による都市の文化的研究を重視し、国際的な視野で展開を図る。そのため西欧のみならず東・東南アジアの主要大学の所在都市にサブセンターを置き、研究を進める。

大阪市立大学は、歴史文化の伝統豊かな国際的大都市である大阪市に立地し、都市型総合大学たることを理念としている。このため、文学研究科は、都市文化研究を推進する世界一流の研究教育拠点を形成することをめざす。大阪市を設置者とする最大規模の公立大学にふさわしい研究教育拠点として、都市自治体の文化諸施策を支える研究成果を発信し、あるべき都市社会の指標を示す。

7. 研究拠点形成実施計画

(拠点形成にあたり、実施していく研究計画、方法を具体的に記入してください。)

本拠点における都市文化研究は、ハンブルク大学との学術交流の実績と、現在プロジェクト研究として継続中の同大学との共同研究が基礎となる。西欧諸大学との共同研究に加えて、アジア的視点による都市文化研究を共同して行うために、東・東南アジアの主要大学と学術交流協定を結んだ。これにもとづき、当面ハンブルク市・ロンドン市・バンコク市・ジョクジャカルタ市・上海市にサブセンターを設ける。

本拠点は、A 比較都市文化史研究、B 現代都市文化研究、C 都市の人間研究の3研究教育チームで構成される。3チームは緊密に連携しながら教育研究を推進する。本拠点のホームページを立ち上げ、センターとサブセンターをネットワークで結んで研究を進める。都市文化に関する複合的なデータベースを構築して、これに組み込む。本拠点の研究成果は、学術雑誌『都市文化研究』(仮称)ならびに『大阪市立大学文学研究科叢書』(仮称)として公表する。

8. 教育実施計画

(拠点を形成する際に実施される教育関係の取り組み計画を具体的に記入して下さい。)

本研究科ならびに国内外の大学の博士課程大学院学生を、研究計画書にもとづいて研究教育チームに参加させる(以下、COE研究員)。

本研究科のCOE研究員をサブセンターに長期滞在させ、学術交流協定を締結した当地の大学等で、都市文化研究に従事させる。国内外の諸大学から優れた研究者を招聘し、COE研究員を主たる対象として、討論主体のゼミナールを開く。また、同研究員を対象とするサマースクールを開き、招聘研究者や事業推進担当者等による指導の徹底をはかる。本研究科のCOE研究員に、研究計画書にもとづき、博士論文を作成させる。事業推進担当者等は、そのための教育・指導を十分に行う。

以上により、都市文化に関する幅広い識見を有し、本拠点の将来を担う優秀な若手研究者を養成する。